

**2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）**

2020年1月31日

上場会社名 旭有機材株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4216 URL <https://www.asahi-yukizai.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中野 賀津也  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部長 (氏名) 亀井 学 TEL 03-5826-8820  
 四半期報告書提出予定日 2020年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	40,912	△2.5	2,952	△0.1	2,960	△5.1	2,130	△28.3
2019年3月期第3四半期	41,979	19.8	2,956	30.0	3,119	26.9	2,973	40.2

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,854百万円(△15.9%) 2019年3月期第3四半期 2,203百万円(△5.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	111.34	—
2019年3月期第3四半期	155.36	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	65,182	44,031	67.0	2,281.99
2019年3月期	62,541	43,179	68.4	2,235.15

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 43,660百万円 2019年3月期 42,765百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2020年3月期	—	25.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,000	3.4	3,700	△12.4	3,900	△11.2	2,900	△25.7	151.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	19,800,400株	2019年3月期	19,800,400株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	667,882株	2019年3月期	667,337株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	19,132,830株	2019年3月期3Q	19,135,224株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループにおける経営環境は、中国をはじめとした自動車販売の減速が引き続き影響している一方で、日本をはじめとした東アジア地域での半導体投資の再開など明るい材料も出始めてきました。このようななか、当社グループは継続した成長を目指し、製造・販売の活動拠点の強化やグループ一体となった営業を中心に、各事業部の営業活動量を上げることに取り組み、加えて生産の効率化を進めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は40,912百万円(前年同期比 $\Delta 2.5\%$ )となり、営業利益は2,952百万円(前年同期比 $\Delta 0.1\%$ )、経常利益は2,960百万円(前年同期比 $\Delta 5.1\%$ )、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,130百万円(前年同期比 $\Delta 28.3\%$ )となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年に旭エー・ブイ産業株式会社の株式追加取得に伴う特別利益を計上した影響を受けた結果、マイナス幅が大きくなっています。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① 管材システム事業

国内の主力製品については、耐食問題の解決と金属代替をスローガンに樹脂バルブのシェアアップと使用領域の拡大を主眼に粘り強い販売活動を推進した結果、第3四半期は修繕等の設備投資の取り込みができ、上期に比べ堅調に推移しましたが対前年では減収となりました。半導体製造装置向けのダイマトリックス製品は、第2四半期中より受注が回復してきており、第3四半期においても継続した受注を得ることができました。

海外では、米国において、引き続き堅調な需要を取り込むことができているものの、中国での半導体投資等の遅れによる影響を受けたことで売上が減少しました。

利益面においては、ダイマトリックス製品が回復基調にあるものの、国内外での売上減少による利益の減少に加え、能力増強等による減価償却費の増加により、対前年で下回りました。

その結果、当セグメントの売上高は23,919百万円(前年同期比 $\Delta 5.5\%$ )、営業利益は2,019百万円(前年同期比 $\Delta 24.2\%$ )となりました。

#### ② 樹脂事業

主力の素形材用途向け製品の売上は、国内外においてシェアアップを目的に営業活動量を増加させているものの、自動車生産の減速の影響が長引いており、市況の落ち込みをカバーするまでには至らず、対前年で下回りました。

建材用途を始めとした発泡材料においては、現場発泡断熱材製品は施工性の良さと吹付施工機械の優位性を武器に第2四半期より本格的に開始した大手施工店との取引が継続しました。トンネル掘削時に用いる固結材製品「AGSR®」においても、地盤が不安定な工区が多く、高い固結強度や止水性が求められる高付加価値製品の販売が増え、売上を伸ばしました。また、第2四半期よりグループ化しました断熱材吹付施工会社の請負事業においても、工事受注が堅調に推移しました。

電子材料用途を主力製品とする高機能樹脂の売上は、半導体の微細化に対応している国内の大手レジストメーカー向け低メタル製品が堅調に推移しました。海外では中国や台湾の需要が回復基調となりました。

利益面においては、昨年から進めてきた生産体制の効率化と、上記吹付施工会社の連結効果もあり対前年で大きく上回りました。

その結果、当セグメントの売上高は12,616百万円(前年同期比 $+1.0\%$ )、営業利益は732百万円(前年同期比 $+43.9\%$ )となりました。

#### ③ 水処理・資源開発事業

水処理事業の売上は、官庁案件が順調に進捗した事に加え、民間産業廃水案件を中心に受注が好調に推移した事から、大幅な増収を達成しました。また、増収に加え、利益面において相対的に収益性が低い都心のビル中水案件が大きく減少した事から、営業利益は大幅な増益となりました。

資源開発事業は、地熱資源開発における需要は旺盛である中、大型地熱工事の進捗遅れにより、対前年で減収となりましたが、利益率が好転したことで、営業利益は若干の減収にとどまりました。

環境薬剤事業は、前年を若干下回りましたが、営業利益は例年並みで推移しました。

維持管理事業は、メンテナンス・修繕工事とも上期に引続き堅調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は4,377百万円(前年同期比 $+4.7\%$ )、営業利益は52百万円(前年同期の営業損失は185百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は65,182百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,641百万円増加しました。これは主に製品などのたな卸資産が増加したことによるものです。負債は21,152百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,790百万円増加しました。これは主に金融機関からの借入金が増加したことによるものです。純資産は44,031百万円となり、前連結会計年度末に比べ852百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、2019年5月15日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,912	8,376
受取手形及び売掛金	15,041	14,258
電子記録債権	3,092	3,245
たな卸資産	10,518	12,221
その他	755	706
貸倒引当金	△47	△47
流動資産合計	37,272	38,759
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,587	6,571
その他(純額)	11,183	11,186
有形固定資産合計	17,770	17,757
無形固定資産		
のれん	653	1,595
その他	397	377
無形固定資産合計	1,050	1,972
投資その他の資産		
投資有価証券	2,919	3,168
退職給付に係る資産	2,744	2,730
その他	806	817
貸倒引当金	△20	△21
投資その他の資産合計	6,449	6,694
固定資産合計	25,269	26,423
資産合計	62,541	65,182
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,022	5,034
電子記録債務	3,155	3,470
短期借入金	2,516	4,793
未払法人税等	459	478
その他	3,738	3,591
流動負債合計	15,890	17,366
固定負債		
長期借入金	138	381
退職給付に係る負債	1,721	1,774
株式給付引当金	20	28
役員株式給付引当金	52	72
その他	1,542	1,532
固定負債合計	3,472	3,786
負債合計	19,362	21,152
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,497	8,524
利益剰余金	28,926	30,093
自己株式	△1,135	△1,136
株主資本合計	41,287	42,481
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	522	663
為替換算調整勘定	636	346
退職給付に係る調整累計額	320	169
その他の包括利益累計額合計	1,478	1,179
非支配株主持分	414	370
純資産合計	43,179	44,031
負債純資産合計	62,541	65,182

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	41,979	40,912
売上原価	28,514	27,034
売上総利益	13,466	13,878
販売費及び一般管理費	10,509	10,926
営業利益	2,956	2,952
営業外収益		
受取利息	24	9
受取配当金	88	82
不動産賃貸料	41	54
出資金運用益	17	5
その他	56	31
営業外収益合計	226	181
営業外費用		
支払利息	18	17
不動産賃貸費用	11	11
為替差損	17	103
その他	17	42
営業外費用合計	63	173
経常利益	3,119	2,960
特別利益		
固定資産売却益	14	13
投資有価証券売却益	1	—
負ののれん発生益	1,041	—
特別利益合計	1,056	13
特別損失		
固定資産除却損	49	19
固定資産売却損	3	1
投資有価証券売却損	1	10
段階取得に係る差損	340	—
和解金	—	41
損害補償損失	—	100
特別損失合計	392	171
税金等調整前四半期純利益	3,783	2,802
法人税等	774	647
四半期純利益	3,009	2,156
非支配株主に帰属する四半期純利益	36	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,973	2,130

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,009	2,156
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△477	151
為替換算調整勘定	△83	△302
退職給付に係る調整額	△232	△151
持分法適用会社に対する持分相当額	△14	—
その他の包括利益合計	△806	△302
四半期包括利益	2,203	1,854
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,161	1,831
非支配株主に係る四半期包括利益	42	23



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I. 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額
	管材システム事業	樹脂事業	水処理・資源開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	25,313	12,486	4,181	41,979	—	41,979
セグメント間の内部売上高又は振替高(注) 2	184	1	2	188	△188	—
計	25,497	12,487	4,183	42,167	△188	41,979
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))	2,663	509	△185	2,986	△30	2,956

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

前第3四半期連結累計期間において、株式取得に伴い、旭エー・ブイ産業株式会社を連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、管材システム事業で1,041百万円であります。

## II. 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額
	管材システム事業	樹脂事業	水処理・資源開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	23,919	12,616	4,377	40,912	—	40,912
セグメント間の内部売上高又は振替高(注) 2	153	0	—	153	△153	—
計	24,072	12,617	4,377	41,065	△153	40,912
セグメント利益(営業利益)	2,019	732	52	2,803	149	2,952

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、株式取得に伴い、株式会社ランドウィックを連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、樹脂事業で980百万円であります。

なお、のれんの金額は取得原価の配分が終了していないため、暫定的に算出された金額であります。